

lidi-ochracea uniguttata. Paraphyses filiforme 4-4.5  $\mu$  in diam. septatae hyalinae, apice curvatae vel spiratae.

Nom. Jap. *Tutikure-take*.

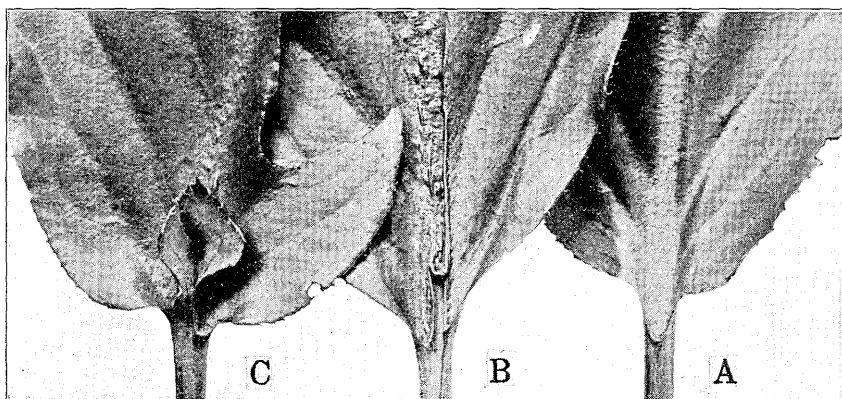
Hab. Mt. Daisetsu-san, Yezo (Y. KOBAYASHI, 4 Aug. 1937)

## 畸形植物雜組 (其二)

亘 理 俊 次

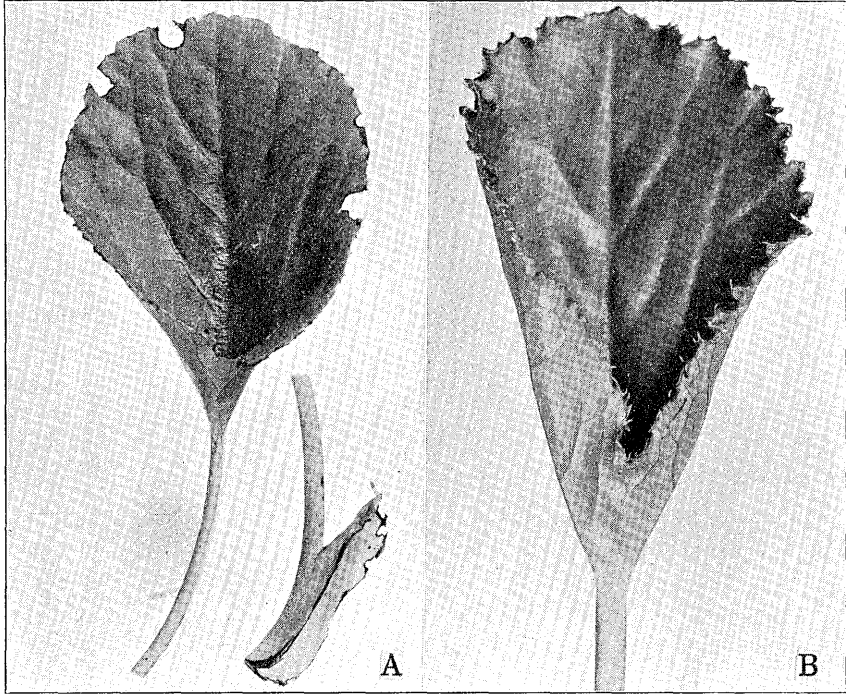
SHUNJI WATARI: Teratological Notes (II)

9. ひまらやゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER (ゆきのした科 Fam. Saxifragaceae) ノ上面盃狀葉及ビ之ニ關聯スル二三ノ異常ニ就イテ (第 11-17 圖) —— 此處ニ報告スルひまらやゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER (*Saxifraga Stracheyi* HOOK. f. et THOMS.) ノ種々ノ異常葉ノ大部分ハ、小石川植物園ノロックガーデンニ栽培シテキルモノカラ、三年程ノ間ニ互ツテ採集シタモノデアルガ、一方、昨年ノ夏横濱市富岡ノ鈴木氏方ノ栽培品中ニモ數葉ヲ見出シ、同氏ノ御好意ニヨリ之ヲ入手スルコトヲ得タ、又小石川植物園上原氏ノ御好意ニヨリ、市中某家ノ栽培品中ニ現ハレタ二葉モ入手スルコトガ出來



第 11 圖 ひまらやゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER (約 1/2 倍、説明本文中)

タ。之等異常葉ハ其ノ形態ガ種々様々デアツタガ、比較觀察シテ見ルニ孰レモ相互ニ連關アル一群ノ異常現象ノ現ハレニ外ナラヌモノデアツタ。第11圖以下之等ノ中ノ代表的ナモノヲ圖示シテ順次説明シテ見ヨウト思フ。



第12圖 ひまらやゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER (約1倍、説明本文中)

本種ノ通常葉ハ倒卵形、皮質デ葉表ハ深綠色デ頗ル光澤ニ富ミ、葉裏ハ淡綠色デ光澤ハ比較的少ナイ。大形ノモノハ葉身部ノ長サ20cm以上ニ及ブコトガアリ、葉柄モ屢々10cm以上ニ達スル。葉柄基部ハ鞘狀ヲナシテ莖ヲ包ミ、縁邊ハ葉柄基部ノ腹部ノ一點ニ集合スルカ、又ハ腹面上ニ庇狀(第12圖Aノ右側ニ葉柄基部ガ切離シテ示サレキルガ如クニ)ヲナシテキルコトガ多イ。從ツテ葉柄ハ完全ナ單面構造(unifacial structure)ヲ示シテ居ルモノデアツテ、斷面ハ通常圓形ヲ呈スル。葉ノ縁邊ハ葉柄ノ腹面(又ハ上面)ノ一點ニ起リ、漸次ニ或ハ急激ニ開イテ葉身部ニ移行シテ居リ(時ニ葉基ノ終ツタ後其ノ直上ノ部デ再ビ開イテキルコトモアル)、此ノ葉縁ノ集合點ハ稍突起シテキルコトガ屢々デアアル(第11圖Aニ此ノ有様ガ明カデアルト思フ)。葉縁ハ多少鋸齒ヲ有シ、波狀ニ起伏シテキルコトガ多イ。

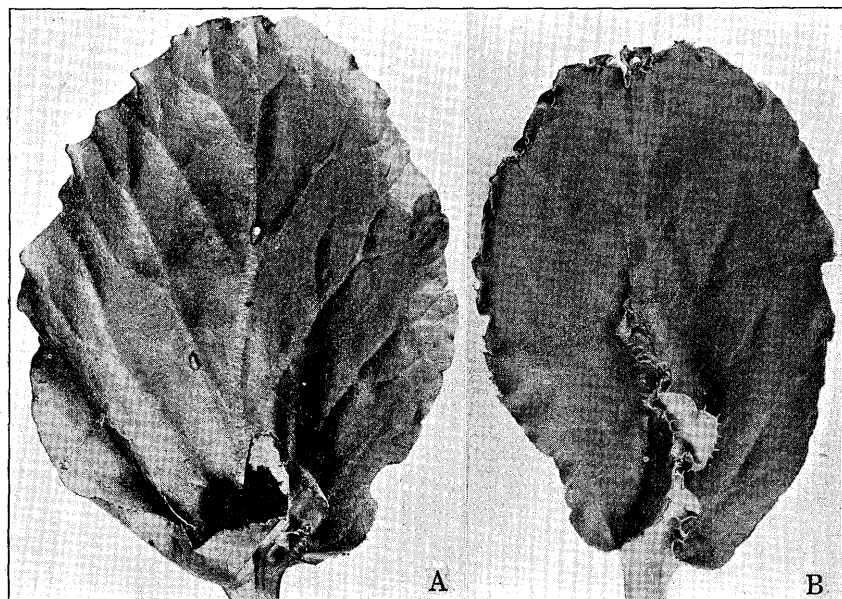
擬テ本種ニアラハレル畸形ノ第一ハ、第12圖ニ示シタ様ニ、葉身全體ガーツノ葉ノ表面ヲ内側トスル盃狀葉、即チ上面盃狀葉ヲナス場合デアル。多クノ場合、之等盃狀葉ハ、圖ニ示シタ通り中肋方向ノ葉身部が大イニ發達シテ、盃ノ腹壁（圖デ手前ノ方）ノ部分ハ發育程度ガ小サク、恰モ圓錐形ノこぶヲ斜メニ截リ落シタ様ナ觀ヲ呈スルガ、時ニ腹方ノ部分モ大イニ發達シテ殆ンド完全ナ盃狀ヲ呈スルニ至ルコトモアル。コノ盃狀葉ノ成因ハ或ハ葉ノ發育ノ途中ニ於テ葉身基部ノ縁邊ガ癒合スル事ニ由ツテ生ズルト考ヘラレ、或ハ通常葉ノ葉身基部ノ合一點ノ部分ガ相伴ツテ異常ニ發育シテ盃狀葉ヲ形成スルモノト考ヘラレテキル。<sup>1)</sup> 本種ニ於ケル葉柄ガ單面構造ヲ有スルコト、葉緣集合部ノ突起ハ恐ラク發育ノ初期ニ現ハレル所謂橫膨出（脚註参照）ニ相當スルモノデアル事等ヲ考ヘルトキ、本種ノ葉ガ時ニ盃狀ヲ呈スルニ到ルコトモ了解シ得ラレル様ニ思ハレル。

此ノ種ノ盃狀葉ノ葉身部ハ通常葉ニ比シテ小サイノガ常デ、第12圖Aニ示シタモノデハ葉身ノ長サ6cm、幅4cm、腹壁ノ高サ1cm許リ、又Bニ示シタモノデハ長サ7cm、幅4cm、腹壁ノ長サ2cm程デ、小生ノ得タ盃狀葉デハ大體此ノ程度ノモノガ最多數デアツタ。併シ葉身ノ長サ10cm、幅7cm、腹壁ノ高サ3cmニ及ブモノガ一葉アツタ。此處ニ注意スベキハ、葉柄ノ長サデアツテ、通常葉デハ10cm以上ニ及ブモノハ比較的少ナイガ、盃狀葉デハ10-13cmノモノハ極メテ普通デ、時ニ15cmヲ超エルモノガアル。盃狀葉ノ現ハレル位置ハ比較的莖ノ上位ニ多ク、花序ノ直下ニ現ハレルコトモ屢々デアル。

第二ノ畸形ノ輕度ノモノハ、第11圖Cト第13圖Aニ示シタ様ナモノデ、前例上面盃狀葉ノ腹方葉身部ノ基部ガ其ノ正中線デ中肋ニ癒合シタト考ヘラレルモノデアル（尤モ精確ニ中肋上ト云フ譯デハナク、多少側方ニズレテ居ル場合ガ多イ）。第11圖Bハコノ癒合部ノ周邊ノ部ガ全然發育シナカツタト見ルベキデアラウト思ハレル。勿論コノ癒合ハ葉ノ發育ノ極メテ初期ニ起ルモノデ、コノ癒合ノ狀況、其ノ後ノ發育狀態等ニヨツテ種々様々ノ場合ガ生ジ得ルコト

<sup>1)</sup> W. TROLL (Planta, 17, pp. 153-314, 1932) ハ後者ノ意見ヲ唱ヘ、通常ニ楕狀、盃狀、囊狀等ノ形態ヲ有スル葉ニ於テハ、其ノ發育ノ初メニ於テ、腹方ニ橫膨出 (Querwulst) ナル突起部ガ現ハレ後他ノ葉身部ト俱ニ發育シテ、楕狀・盃狀及ビ囊狀葉等ノ腹方ノ葉身部ヲ形成スルモノデアルコトヲ述ベテキル。而シテ橫膨出ガ發育中現ハレルモノ必シモ之等特殊ナ形態ヲトルニ到ルデハナク、通常ノ如ク葉身基部カラ葉柄ニ流レル形トナルモノガ多イノデアルガ、併シ乍ラ之等ハ異常ニ發育シテ、楕狀・盃狀等ヲ呈スル素質ガ多イモノトシ、其ノ多數ノ例ヲ擧ゲテキル（之等ノ意見ニ關シテハ後ニ經メテ考案スル機會ヲ作りタイト思フ）。

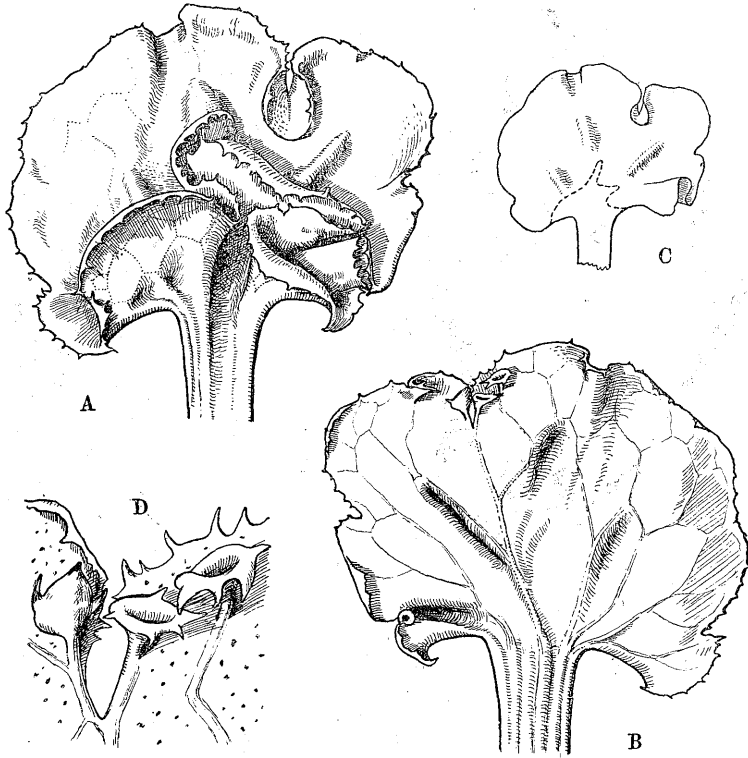
ハ想像スルニ難クナイ所デアル。此ノ癒合部ト葉身基部ノ縁邊トガ連ツテ大イニ發達スレバ、コノ癒合部ヲ距テ、二ツノ盃狀部ガ形成セラル、理由デアル。然シ實際ニハ精々第 13 圖 A 程度ノモノガ多ク、第 13 圖 B 或ハ第 15 圖 A



第 13 圖 ひまらゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER  
(約 1/2 倍、説明本文中)

ノ如ク極メテ淺イモノ、方ガ普通デツテ、又盃狀部ヲ全ク缺キ中肋ニ癒合シク部分ノミトナツテ了フ場合モ少クナイ。第 11 圖 B ハ中肋上ノ癒合程度ガ甚ダ大デ葉身全長ノ三分ノ二ニ及ンデ居リ、中肋ノ兩側ニ沿ツテ葉片ガ並立シテキルノガ見ラレル。コノ附屬葉片ハ第 11 圖ニ明カナ如ク葉ノ正中線寄りノ方ガ裏面ニアタル。而シテ附屬葉片ノ縁邊ハ、大ナリ小ナリ波曲シテキルノガ常デアツテ、其ノ著シイ例ハ第 14 圖 A ニ見ラレル。此ノ圖ニ示シクモノデハ、葉身基部ノ双方ニ位スル盃狀部モ大イニ著シイ。併シ乍ラ向ツテ左方ノモノハ葉身ト腹壁ガ互ニ癒合シテ居ル部ガ大キク、盃ハ大イガ極メテ淺イ。尤モ癒合ハ不完全デ、盃部ノ底線カラハ葉身基部ニ向ツテ、二三ノ穿孔狀ノ入り込ミガアル。附屬葉片ノ葉身ニ癒合スル境界線ハ、第 14 圖 C ニ點線デ示スガ如キモノデアルガ、其ノ上ニ立ツ葉片縁邊ノ延長ハコノ底線ニ比シテ著シク大キク、結果トシテ附屬葉片ハ甚ダシク波曲重疊シテ複雑ナ形態ヲ示シテ居ル。又本例ニ於テハ葉身裏面ニ溝狀ノ深イ或ハ淺イ窪ミガアリ (第 14 圖 B)、表面カラハ堤

防狀ノ突起トシテ見ラレル。此ノ様ニ葉身上ニ葉片ガ附屬スル現象ハ Enation  
ト呼バレ、中肋上ニ沿フノガ尤モ普通デアアルガ、側脈上ニ現ハレルモノ、不規  
則ニ現ハレルモノ等ガアリ、形モ甚ダ種々デアツテ、其ノ成因モ一概ニ論ズル

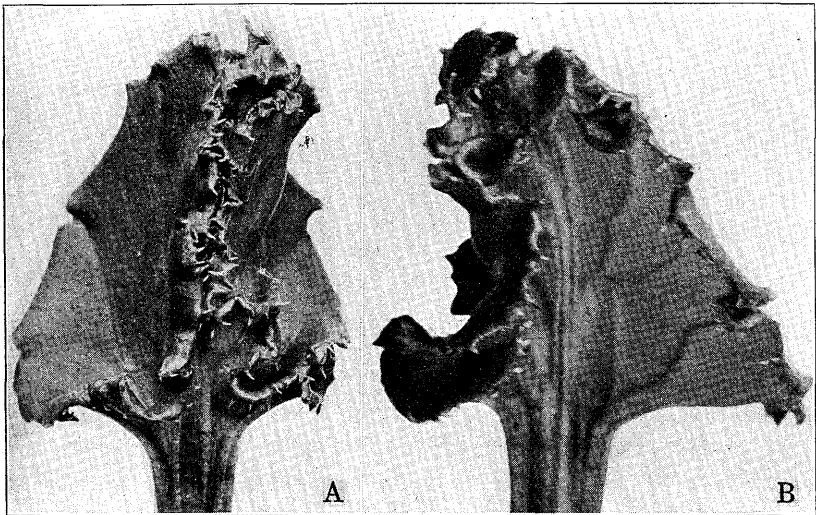


第 14 圖 ひまらやゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER  
(A, B, 1.2 倍; D, 約 5 倍、説明本文中)

譯ニハ行カナイ様デアアル。附屬葉片ハ葉ノ表面ニモ出レバ(本例ノ如ク)、又葉  
裏ニアルコトモアル。扱テ元ニ歸ツテ本種ニ於ケルコノ現象ニ伴ツテ起ル注意  
スベキ事柄ガアル。即チ其ノ一ハコノ現象ノ程度ト略々比例シテ、葉縁ノ波ガ  
甚ダシクナル傾向ガ存シ(第 11 圖、A, B) 遂ニ此ノ部ハ葉表ニ縊レテ縁邊ニ  
小上面盃狀體ヲ形成スルニ到ルモノヲ屢々見受ケルコトデアツテ、第 13 圖及  
ビ第 14 圖 B, D ニコノ有様ガ明カデアラウ。第 13 圖 B ニ於テハ葉身上端カ  
ラ左方ノ縁邊ニカケテコノ種々ノ程度ノモノガ存シ、最上部ニ位スルツハ略  
完全ニ盃狀體ヲ形成シテキルノガ見ラレ、又第 14 圖 B ニ於テハ 3 個ノ完全ナ

盃狀體トソレ等ノ左ニ縁邊ノ背方ニ縊レテ特ニ盃狀部ヲ形成セントスルモノガ見ラレル。此ノ3個ノ盃狀體ノ形狀ハ第14圖Dニ明カデアラウ。一般ニ中肋末端ニアタル部ノ縁邊又ハ其少シ背後ニハ最モ盃狀體ガ出來易イモノ、如クデアアル。他ノーツハコノ葉身基部ノ方カラ中肋ニ沿ツテ癒合シタト考ヘラレル部分ガ大トナルニ連レテ、屢々葉身ノ最上端カラハ逆ニ基部ニ向ツテ縁邊ガ反轉シテ來ル傾向ノ存スルコトデアツテ、コノ反捲部ハ多クハ葉身表面ト癒合シテキル。第13圖Bニハコノ輕度ナモノガ見ラレ、第14圖Aニハ更ニ著シイモノガ示シテアル。然シコレハ葉身基部ノ何等異常ノナイトキニモ起ルコトガアル。之等ノ葉モ前例ト同様一莖中比較的上位ニ着生スルモノニ多イ。

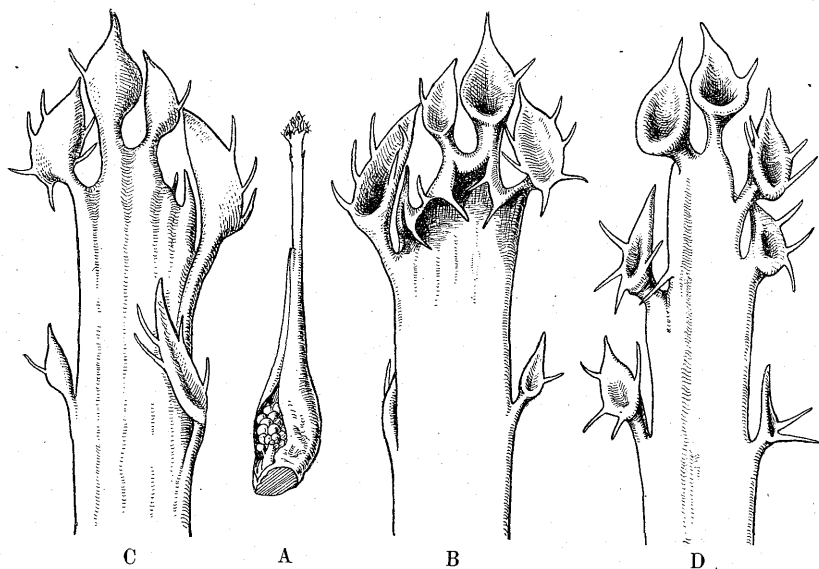
扱テ此等現象ガ更ニ強度ニ起ツタ、メ、遂ニ全葉身ヲ縦斷シテ了フニ到ツタト考ヘラレルノガ、第15圖C, Dニ示スモノデアツテCハ表面ヨリ、Dハ裏面ヨリ見タモノデアアル。此レハ第11圖Cニ示シタモノ、直上節位ニアツタ小形ノ葉デコノ葉鞘中ニハ來ルベキ春開ク花序ヲ包有シテキタ（採集シタノハ7月）。本例ニ於テモ葉身上端部ニハ數箇ノ小盃狀體ヲ着生シテキル。盃狀體ノ或ルモノハ縁邊ニ、或ルモノハ小柄ヲ以ラ葉縁ヨリ少シク距ツタ葉裏ニ着生シ



第15圖 ひまらやゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER  
(約1.5倍、説明本文中)

テキル。更ニ本例ノ如キモノニ於テ注意スベキハ葉柄ノ大サニ比シテ葉身部ノ發達ガ漸次不良トナル傾向ノ存スルコトデアアル。此ノ葉肉部退化ノ極端ニ行ハレタモノ、數例ヲ第16圖並ビニ第17圖ニ示シタ。此等ノ葉ハ莖ノ最上部ニ位

スルモノデ、孰レモ其ノ葉鞘部中ニ幼花序ヲ包藏シテ居タ。即チ其ノーツハ第16圖Aニ示スガ如ク、幼花序ヲ抱ク葉鞘部ニ比シテ、葉柄部ハ扁平且ツ小デ、葉身部ノ如キハ其ノ頂部ニ着生スル6箇ノ小杯狀體ト僅少ノ鋸齒狀突起ニヨツテ示サレルニ過ギナイ（頂端部ノ表裏ノ明細ヲB及C圖ニ示ス）。カ、ルモノニ於テハ葉鞘縁邊ノ合一部カラ上ノ棒狀ノ部ハ其ノ大部分ガ形態學的ニハ葉ノ裏面ニ相當スルモノデ、表面ハ小盃狀體ノ内面並ビニ鋸齒ノ片面ニノミ限ラレテキルモノト考ヘラル。而シテ同圖Dニ示シタモノデハ、7箇ノ小盃狀體ノミ



第16圖 ひまらやゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER

(A, 約 1/2 倍; B-D, 約 4 倍; 説明本文中)

トナリ、表面構造ハコレラ盃ノ内面ノミニ見ラレルニ過ギナイ。略々同様ノ例ノ表裏觀ヲ第17圖A, B (Bハ裏面) ニ示シテアルガ、本例ニ於テハ其ノ周邊ニ沿ツテ小盃狀體及ビ當ニ溢レテ盃ヲ形成セントスルモノ夫々數箇着生シ、尙ホ稍大ナル盃狀體ガ腹方ニ二箇存スル (A圖)。此ノ狀態ガ第11圖C, Dニ於ケル例ノ極度ニ退化シタ場合デアルコトハ想像ニ難クナイト思ハレル。而シテ盃狀體ガ全部上面盃狀體デアルヲ以テスレバ、コレラ盃狀體ノ中、周邊ニ沿フモノハ葉身ノ極度ニ退化シタ縁邊ニ生ジ、中央ニ集レル幾箇カハ中肋ニ癒合セル部ノ縁邊ニ生ジタモノト考ヘラル。又第17圖Cニ示シタモノハ略A圖ノモノト同ジ程度デアルガ、唯全然盃狀體ガ形成セラレナカツタト考ヘラル

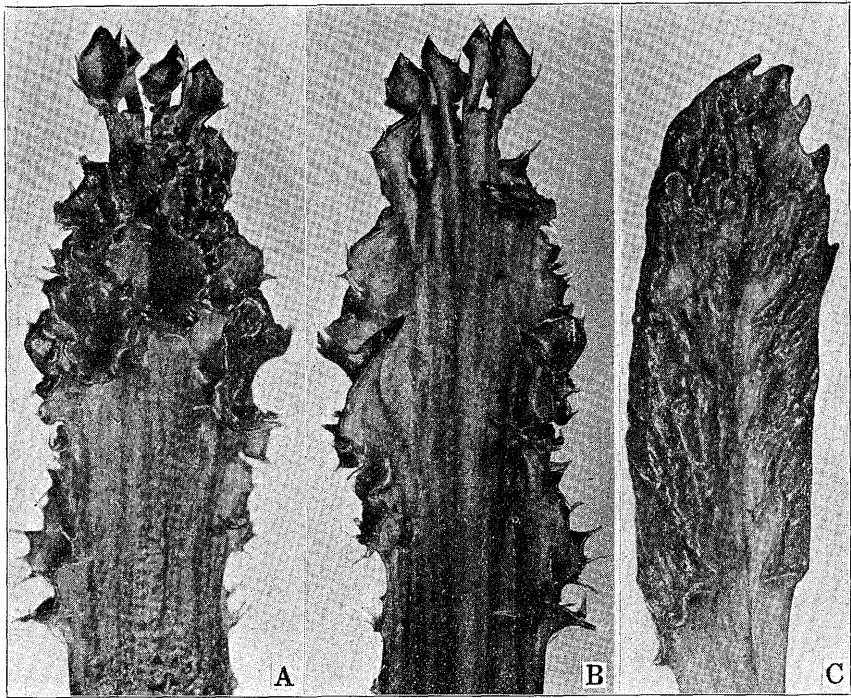
モノデアル。即チ第 11 圖 B ノ場合ノ葉身部ノ發育ガ極メテ小サカツタ場合デアル。

扱テひまらやゆきのしたニ就イテハ、以上ノ様ナ畸形ニ關スル報告ハ無イ様デアルガ、極メテ近縁ノ種 *Bergenia crassifolia* FRITSCH. ニ於テハ夙ニ知ラレテ居ル所デ、其レニ關スル報告<sup>1)</sup> モ甚ダ多數ニ及ンデ居リ、或ハ上面盃狀葉ヲ報ジ、或ハ中肋ニ沿フ附屬葉片ヲ報ジ、又或ハ本報第 16, 17 圖ノ如ク多數ノ盃狀體ノ着生スルモノ等ヲ報ジテ居ル。C. DE CANDOLLE<sup>2)</sup> ハ之等ノ異常現象ハ一莖ノ最上位ニアル葉ニ殆ンド規則的ニ現ハレルモノトシタ。PENZIG<sup>3)</sup> ハ(恐ラクハ以上ノ多數ノ報告ヲ參照シテ結論シタモノデアラウガ)之等異常現象ノ中、附屬葉片ガ最モ普通ニ現ハレルガ其ノ形態學的意義ハ未ダ満足ナ解決ガ與ヘラレテ居ラナイトシ、上面盃狀葉ハ比較的屢々出現スルモノ、又盃狀體ヲ着ケル場合ハ最モ稀レデアルト述ベテ居ル。又 *Bergenia ligulata* ENGLER ノ同様ノ一系列ノ異常葉ハ WORSDELL<sup>4)</sup> ガ諸處ニ論ジテ居ル所デアツテ、就中、中肋ニ沿フ附屬葉片ヲ有スル型ハ雄蕊ノ構造ニ關聯シテ特ニ重要視シテ居ル所デアル(此ノ考ハ後節ニ紹介スル折ガアルコト、思フノデ此處デハ省略スル)。彼ノ圖示スルモノ、中、小盃狀體アル場合、之等ハ孰レモ中肋末端ノ緣邊、又ハ緣邊カラ少シク距ツタ背後ニ着生シテキルコト、葉身上端ニ反捲部ヲ有スルモノガアルコト等モ、ひまらやゆきのしたノ場合ト同様デアルノハ注意ニ値スル事デ

<sup>1)</sup> WYDLER, Flora, 1850, 及ビ 1852, p. 278; SCHIMPER, Flora, 1854, p. 74; SCHLECHTENDAL, Bot. Ztg. **19**, 1861, p. 5; KICKX, Bull. de l'Ac. Roy. de Belg. 2 Sér, t. **16**, 1863; BRAUN, Sitzb. d. Bot. Ver. d. Prov. Brandenbg. **16**, 1874, p. 49; JACOBASCH, 同前, **20**, 1878, p. 92; HEINRICHER, Sitzb. d. K. Ac. d. Wiss. Wien, Abt. I, **84**, p. 69, Tab. VI, fig. 22-25; MASSALONGO, Nuovo Giorn. Bot. Ital. **18**, 1886, pp. 324-326, Tab. XV, 同上, 1890, pp. 5-18, 1 Pl., 及 Malpighia, **19**, 1905, pp. 316-328, 2 pl.; ARCAN-  
GELLI, Bull. Soc. Bot. Ital. 1895, p. 224; DE VRIES, Bot. Jaarb. Dodonaea, **7**, 1895, pp. 166-167, 194, 及ビ Mutationstheorie, 1901-'03, Bd **1** (1901), p. 41, 45, fig. 16; VAULLE-  
GARD, Bull. Soc. Linn. de Caen, 5 Sér. **2**, p. 48; TAMMES, Verh. d. K. Ak. van. Weten-  
sch. te Amsterdam, 1903, p. 128; MARCELLO, Boll. Soc. Natural. Napoli, **17**, 1904,  
pp. 41-44; MONTEMARTINI, Atti Ist. Pavia, Ser. 2, **10**, 1904; GUÉBARD, Bull. mens.  
Acad. Franc. Avanc. Sc. **9**, 1904, p. 380. 及同上 1905, p. 170; C. DE CANDOLLE, Bull.  
Trav. Soc. Bot. Genève, 1905, Nr. 11, pp. 4-18, Taf. 1; GILLOT, Proc. Verb. Soc. Hist.  
Nat. Autun, 1906, 53 p.; MAHEU et GILLOT, Journ. de Bot. **19**, 1905, pp. 27-39; BEAU-  
XERD, Bull. Soc. Bot. Genève, Sér. 2, **4**, 1912, p. 375.

<sup>2)</sup> 脚註 1) 參照。 <sup>3)</sup> Pfl.-Ter., 1901-'03, **2** (1901), pp. 340-341. <sup>4)</sup> Pr. Pl. Ter., 1915-  
1916; **1** (1915), pp. 199, 201, Pl. **18**; **2** (1916), pp. 162, 164, 165, 180, Pl. **41**, figs. 5,  
6, 7, Pl. **43**, fig. 13, Pl. **46**, figs. 1, 2.





第 17 圖 ひまらやゆきのした *Bergenia Stracheyi* ENGLER  
(約 5 倍、説明本文中)

アル。又本種ノ異常葉ハ KICKX<sup>1)</sup>, BRETIN<sup>2)</sup> モ報告シテ居ル。又 *Saxifraga latifolia* WALLICH. ニモ上面盃狀葉ト中肋ニ沿フ附屬葉片ガ知ラレ (GENEAU DE LAMARIÈRE)<sup>3)</sup>, *Saxifraga ciliata* LINDL. (GILLOT)<sup>4)</sup>, *Saxifraga rotundifolia* L. (LINGELSHEIM)<sup>5)</sup> ニハ上面盃狀葉ノ報告ガアル。而シテ一方、之等ニ近縁ノ *Saxifraga mengzeana* ENGL. et IRMSCH. var. *peltifolia* ENGL. et IRMSCH., *Peltiphyllum peltata* ENGL., やはたさう *Peltoboykinia tellemoides* HARA (*Boykinia tellemoides* ENGL.), わたなべさう *Peltoboykinia Watanabei* HARA, ふきもどき *Astilboides tabularis* ENGL. ガ正常ニ楕狀葉ヲ有スルコトハ注意スベキデアル。尙稍遠イ種類デハ、著者<sup>6)</sup> ガ報ジタこあぢさゐ *Hydrangea hirta* SIEB. et ZUCC. ニ上面盃狀葉ガアリ、又うつぎ *Deutzia crenata* SIEB. et ZUCC.

<sup>1)</sup> 921 頁脚註 1) 参照。 <sup>2)</sup> Compt. Rend. Soc. Bot. Lyon, 1908, p. 15. <sup>3)</sup> Compt. Rend. Assoc. Fr. Av. Sc., 1899, p. 252. <sup>4)</sup> 921 頁、脚註 1) 参照。 <sup>5)</sup> Jahrsber. d. Schles. Ges. f. Vat. Cult., 13, 1916, p. 2. <sup>6)</sup> 植物研究雑誌, 13 (11). 1937, pp. 815-816, fig. 5.

(GEISENHEYNER)<sup>1)</sup>, あかすぐり *Ribes rubrum* L. (VUILLEMIN)<sup>2)</sup> ニモ上面盃狀葉が知ラレテ居ル。

## 雜 錄 Miscellaneous

### ○さつまくまたけらんノ名ハ不要デアル

*Alpinia satsumensis* GAGNEPAIN in Bull. Soc. Bot. France 4-ser. II: 247 (1902) トイフモノガアル。薩摩デ 1887 年ニ採集サレタ標本ヤ 1889 年巴里博覽會ニ出品サレタモノデ記載サレタノデアルガ、ソノ記載ハ花ダケデアル。一方くまたけらん *Alpinia Kumatake* MAKINO ハ紀州ノ産デ書カレタガ奇シクモ同年ニ發表サレ、又同ジク花ノ記載ダケデアッタ。兩方ヲ比較シテ見ルト彷徨變異ノ範圍内デ差ガアルノミダカラ同一種ト考ヘラレルガ、コノ事ハ既ニ早ク Pflanzenreich 中ニ Zingiberaceae (1904) ラ執筆シタ K. SCHUMANN ガソノ p. 342 デ述ベテ居ル。然モ彼ガコノ兩種ヲ並ベテ記述シタノハコノ本ヲ書イテシマツテカラ牧野先生ノ發表ヲ知ツタカラダト斷ツテ居ル。ソコデワザワザ和名ヲ作ルノ要モナク、コレハくまたけらんノ異名ト扱フベキモノトイフコトニナル。猶くまたけらんハげつとうニ甚ダ近イガ、花穂ハ直立シ、ソノ穗軸ハ無毛デ、後者ノ有毛ニシテ懸垂スルノト異ナルトイフ。果實ノ時ニ果シテドウデアルカハマダ知ラナイ。誰方カソレヲ御存知ノ方ハ御教示ヲ頂キタイモノデアル。

(前 川 文 夫)

### ○ぎぼうしらんノ花色

*Liparis auriculata* BLUME ニツイテハサキニ本誌デ觸レタガ唇瓣ノ色ハ白色トダケ記シタ。其後肥前多良岳ノ産品ヲ F. C. GREATREX 氏カラ原寛君ノ處ニ送り引キツマキ同君ガ栽培シタモノガ開花シタガ、唇瓣ハ微黄緑地デ中央ノ帶狀部ハ濃褐紅色ヲ呈シテ居タト昨年聞イタ。今年結城嘉美氏が羽前、吾妻山麓ノ白布高湯デ採ラレタガ、ソノ標本ニ添ヘタスケツチニハ唇瓣ハ綠色地ニ黒紫色ノ帶ガ中央ニアルト記サレテ居タ。ぢがばちさう等ノ花色ニモ相當ノ變異ガアル様ニコノ程度ノ變化ハアルモノト見エル。因ニ結城氏ノ採集地點ハ北限ノ様デアルガ、ズット北方迄ソノ産ガ期待出來サウデアル。

(前 川 文 夫)

### ○奈良縣ノへらのきト其形態ニツイテ

へらのき (*Tilia kiusiana* MAKINO et SHIRASAWA) ハ九州各地(日向・豊前・豊後・筑後・肥後等)・四國西部(伊豫)ニ産スル暖地性植物デ尙本州(中國ノ一部)ニモ之ヲ産スルコ

<sup>1)</sup> Ber. d. D. Bot. Ges., 21, 1903, pp. 443-447. <sup>2)</sup> Bull. Soc. Bot. Fr., 54 1907, p. 583.